

第5回（仮称）ひたち若者かがやきプラン策定委員会 議事要旨

日 時 令和3年2月17日（水） 午前10時から正午まで

会議形式 オンライン形式（zoom）

出席者 委員11名（欠席4名：中村委員、湯浅委員、鈴木委員、菊池理可子委員）

<会議概要>

1 開会

2 委員長挨拶

- 偏った意見かもしれないので引きずられないようお願いしたいが、1回目の会議で委員からあった「とがったプランでもいいのではないか」という意見が印象に残っており、あえてとがった意見を言わせていただく。
- ジェンダーを大学で教えているのだが、最近の社会の中を見ると、ジェンダー平等ということに関して今突っ込んでいかないと、いつ突っ込むのかという時期に来ていると思う。このプランの中にもその辺の施策も考えていきたいと思っている。
- パブコメの意見が76名あり、すべて読ませていただいたが、女性の生き方を日立市は支え切れていないのではないかと、といった意見が多くあった。女性の働く場所がない、住みやすいまちにはなっていないなどの意見があり、決して女性だけの味方というわけではないが、やはり女性が働きやすい、住みやすいまちということを目指すと、おのずと男性にとっても働きやすい、住みやすいまちになるのではないかと思う。
- その辺の施策も考えていきたいと思っている。今日は皆さんも、自分はこれだと思うものをどんどん出してほしい。

3 議題

(1) パブリックコメントの実施結果について

事務局から資料に基づき報告した。

【委員長】

- 茨城県の子育て関連プラン作成のお手伝いもしているのだが、数カ月前にパブリックコメントを行った結果、26件だった。日立市の方の（仮称）ひたち若者かがやきプランに対する関心の高さを感じた。内容も本気で日立市の若者かがやきを考えてくれているという印象を受けた。

(2) グループインタビューの実施結果について

事務局から資料に基づき報告した。

(3) 主な取組について（ワークショップ）

- ア これまでの意見等を基に、今後取り組むべきことを「主な取組イメージ」として施策体系にまとめた。
- イ 「若者がやってみたいこと、行政にやってほしいこと、連携してやった方がいい

ことを」がすでに取組の中に落とし込まれているかを再度確認しながら最終議論を行った。

ウ A～Cの3つのグループにわかれ意見交換を行い、結果を各グループから発表した。

【Aグループ】リーダー：中島委員長、メンバー：寺家委員、高久委員、松村委員

【Bグループ】リーダー：和田副委員長、メンバー：天坂委員、菊池（晃）委員

【Cグループ】リーダー：菅原委員、メンバー：志摩委員、山形委員、大森委員

◆【Aグループ】の意見発表

【委員長】

- 子育てというテーマで話し合った。育休の制度について、制度があってもなかなか女性が仕事に戻って来られない、戻って来てもなかなか続けていくが大変なため、あまりいい方法ではないかもしれないが、助成金などの制度を作ってはどうか。
- 休むということに関しては、突然子どもが熱を出すなど、何らかの子育ての理由で休むことや、時短勤務することなどがあるが、これに対するプレッシャーが大きく、そのプレッシャーを感じさせない仕組みづくりができないか。解決策の一つとして、日立製作所の管理職の方が学んでくれたら効果絶大である。管理職が「子育て」や「男性・女性が働くということとは」というようなテーマで研修を開催し、受講していただければいいのではないか。
- それに関連して、子育てにやさしい事業所のようなものを日立市独自で表彰したり、広報したりするのもいいと思う。しかし、実際に国や、茨城県でも「プラチナくるみん」という制度があり、出産から育児までやさしい企業に対して認定しているが、その制度があることがあまり知られていないように感じる。それは、日立市の周知が弱いという可能性もあり、周知の工夫が必要だと思う。
- 男性の育休について、まずは日立市役所の男性職員がモデルとなり、育児休暇を積極的に取得できるようになってほしい。事務局に確認したところ、長期で育休を取得したことがあるのはこれまでは2人だけで、1週間などの短期間取得した職員はいるが、それでは「なんちゃって育休」であまり効果がないように思う。まずは、日立市男性職員が率先して、1か月、半年と育休取得ができるようになればいい。茨城県も10年くらい前から、男性職員が率先して育休取得をすると掲げていたが、全然効果が上がっていない。ただ、日立市職員の男性育児休暇取得が増えた場合、市職員だからできるんだと言われないように、企業も巻き込んで取り組むべきである。また、男性が育休を取得することは、女性をサポートすることではなく、本来の子育てに対しても意味があることなのだとということがわかる講座等を開催して知らせることも大事である。また、育休中に何をすることがわからない男性もいると思うので、マニュアルの作成をしてもいいと思う。そして、子どもが誕生してからでは遅いため、結婚

する前や、妊娠して受講するプレママ、プレパパ教室のようなところで、ジェンダーの視点を交えた講座を専門家を招いて開催してもいいと思う。

- ジェンダー平等については、大人になってからでは遅いため、小学生高学年から中学生ぐらいから、休日は誰が家事をしているのか、誰が仕事しているのか、「なんちゃって育休はダメ」というような、ジェンダーの視点を交えた講座を開催してもいいのではないかと。
- 小・中学生くらいになると共有スペースや自習するスペースがほしいとの声が多いが、日立市は非常に少ないように思う。自由に使っていいスペース、特に自習できるスペース、勉強できるスペース、子ども達がイベントできるスペースなどが少ないように感じる。小学生くらいの子どもが自由に使えるスペースがあれば、夏休みなどにいろいろな小学生が集まり、宿題もみんなですることができると思う。なおかつ、そこに勉強を教えてくださいという人が常駐したらすごくいいと思う。百年塾、理科クラブの方、学生などが常駐し、夏休みの宿題の手伝いするというアイデアも出た。
- おしゃれなカフェがなかなか育たない地域という意見が出た。男性は、社員食堂で安く食べられるため、わざわざ高いお金を払ってカフェに行く人は少ないと思うが、女性は雰囲気や付加価値を大事にするため、オシャレなカフェがあれば行ってみたいと思う。やはり、経済力のある女性を増やすことが街の経済を回していくことにつながると思う。
- 日立市は、子育て施策を頑張っているが全然伝わっていないように思う。高萩市在住の方からすると、日立市の子育て施策はとてもうらやましいとの意見がある。また、常陸太田市と比較すると、日立市の方が多くの施策を実施していると思うが、常陸太田市は、新聞やNHKなどの報道に取り上げられることが多く、広報戦略がうまくできているような感じがする。日立市も打って出てはどうか。

◆【Bグループ】の発表

【副委員長】

- 大きく3つについて、大学生ペアと議論した。
- まず1つ目が、若者世代の人口流出の課題があり、対策の一つとしてシビックプライドの醸成があげられているが18歳からでは遅い。小・中・高生のうちに、もう少し自分のまちに矢印が向くようなきっかけを作るべきである。その方法として、日立の歴史などをエンターテイメントのような形で学べたらいいのではないかと。自分も日立市出身で小・中・高と日立市で学んできたが、大煙突の歴史や日立製作所の歴史などを学ぶ授業があり、現在も同じように日立市のことを学ぶ教育はあるのだと思うが、当時は全然面白くなかったというのが正直なところで、あまり印象に残っていない。
- 一方で、大学生の委員は、つくば市と福島県出身だが、「地域かるた」や「郷土検定」を学校内で競い合ったり、学校で選抜された子が他校と競い合ったりするなど、遊び感

覚でありながら、結果歴史を学んでいるということになり、印象に残っているようだ。その方が意欲に燃え、自分のまちに矢印が向くのではないかと思う。

- 例えば、日立市の地域かるたであれば、「や」だったら「夜景最高かみね公園」のようなものがあり、学校内で競い合ったり、日立市での人生ゲームを作ったりなどができれば面白い。これまでの流れを変えることは難しいかもしれないが、ちょっとでも面白おかしく日立市のことを学べれば、結果、日立の歴史を知り、頭にインプットされるのではないか。それにより、18歳未満のうちから日立市に矢印を向けるきっかけになるのではないか。
- 2つ目は、若い女性の工学系モデルとして、キャリアや就職活動という分野の話ができた。現状の日立市では働く場所の情報が少なく、現に働く場所もないため、日立市で就職活動をする人が少ない。例えば、委員は大学で工学系に在籍しているが、参考になるロールモデルがなく情報も少ないので、日立市での就職は諦めてしまい、市外に矢印が向いてしまうのが現状である。そこで、どう情報を出せるのか、どういう接点を生めるのかという議論になった。
- 解決策として2つ出たのだが、進学と就職活動というフェーズで分け、そこに対し、それぞれ人生の先輩と接点を持てる機会を作ればいいのではないか。例えば、進学では、高校生と大学をつなぐ機会を増やし、夢や志など、「こんなスーパーな大人がいるよ」、ワクワクする内容の接点を持てると、進学とか勉強の意識が湧くのではないか。
- 一方で就職活動のフェーズに入ると、夢や志なども大事ではあるが、安心感や現実の生活スタイルが想像できる大人との座談会など、自分の数年先の未来がイメージできる情報を求めている方が多いのではないか。具体的な座談会のイメージはまだ出ていないが、情報提供の仕方や接点の作り方が出来ればいいと思う。日立商工会議所青年部でも開催しているような就活のオンラインフェアなどの情報は、大学のキャリアセンターからメールなどでたくさんくるのだが、正直あまり見られていないようだ。情報のセットの仕方を変えていかななくてはならないと思う。
- パブリックコメントでエンタメ施設を求める声があるという件について、ショッピングモールや新しい商業施設、本屋、映画館などが欲しいとの意見があったが、若者世代は、zozotownやAmazonなどの通信販売が当たり前になっており、お店に行き買い物することは、その場での人との接点や、体験できるという部分に価値があるため、新しい商業施設は、水戸市やひたちなか市などに任せ、日立市は日立市らしい娯楽やエンターテインメント施設、例えばサーフィンができるや、キャンプ場があるなどの方向でのリソースを使うべきではないか。ただ、みんなが楽しめるエンタメに行政としてお金と時間を使うべきではないのではないかと意見もあった。

【委員長】

学生の視点も盛り込まれた素晴らしい意見だと思う。

◆【Cグループ】の発表

【委員】

- 大前提として、いろいろな施策を考えようというところで討議に入ったが、いろいろな手段、戦術があったとしても、結局は戦略的な仕組みがすごく大事だということところが最初の議題になった。
- どのような仕組みがいいのかは、雇用・学校教育・福祉などのテーマでもう一度ブレインストーミングをしてみた。その中で、住んでいる人、これから住む人、観光やビジネスで来る人と分けたとき、住んでいる人へのサービスは作りやすいと思うが、それ以外の、これから住む人やビジネス、観光で来る人などの施策も大事なのではないか。外向きの接続ポイントを作ることも加味して考えていくことを念頭に置き議論を始めた。
- 大きく分けて3つあり、1つ目は、誰でも相談できる窓口をオープンな入口はとしたとき、出口もきちんと用意しないと駄目である。人それぞれの多様性や、一度選択したが、ちょっと違うと思ってもう一度挑戦する際に、Aプラン、Bプラン、Cプランという選択ができる環境が非常に大事である。それは選択肢を増やすことになるが、大きな規模のコミュニティではなく、小さい規模のコミュニティを重ね合わせていくような形で選択肢を増やすことが大事である。また、出口については、みんなが集まるのもいいが、ニッチな、例えばアニメや漫画などのように、引きこまれる場所や趣味嗜好が合う人たちが溜まれる、秘密基地・隠れ家的なところがあるといいのではないか。
- 委員から事例の紹介があった。新潟県に公な家出ができる場所があり、家出しても大丈夫だよ（それは家出なのかという議論もあるが）という場所がデザインされている。そこに来た人の安心安全を担保したり、いつまでも居て良かったりと、寄り添ってあげる仕組みができています。何かに挫折したり、困難にぶつかったりしたときの拠り所があることを地域の形として提案できないかとの議論の際にこの件が出た。
- 委員からも事例紹介があり、群馬県で女性のコミュニティがいろいろブレストしながら、自分たちがやりたいプロジェクトを生み出すし、実現している。そこで関わっている人たちが自分で塾という形でプログラムを組み、学びながらチャレンジしている。このように、最初の入り口のデザインができており、出口ではそれぞれがチャレンジできるような形で運営しているところがいい事例だと思った。
- 委員からは、やりたいことはみんな違うが、それぞれのコミュニティが小さい時点から、濃度が高いコミュニティを作るための施策が必要ではないか。
- 濃度を高めるかという部分で、官民学の人たちが入れる「地域の寮」のようなものがあればいいと思う。例えば、行政や民間の新卒採用で1年目から3年目までの人と学生が最初に入る寮である。

茨城大学は大学2年目から日立市キャンパスになるのだが、日立市にいいイメージがないようで、マイナスからのスタートになっているとの話である。2年目が待ち遠しく、

早く2年目にならないかなと思えるようなワクワク感を日立市に作っておかないと、イメージ戦略として失敗だと思う。そして、あの寮に入りたい、あの場所に住みたいと思ってもらえるようなイメージづくりが大事である。官民学三者が共同で入れるアパートまたは寮などにし、オープンスペースも同じ地域内につくり、そこで作戦会議を行い、小さいコミュニティを作り、チャレンジができる仕組みができればいいのではないか。

【委員長】

ユニークなアイデアが出たと思う。

4 その他

(1) プランの取り組み方について

プラン策定後、プランで位置づけた若者の組織と行政が協働して推進するためのそれぞれの役割や、スケジュールについて説明し了承された。

【委員】

来年度以降も、具体策をより深く考えることを継続して行い、それぞれが持ち寄り、ブラッシュアップしていくという感覚で関わるということによいか。

【事務局】

その通りである。プラン策定後からの動きが大切である。引き続きご協力いただきたい。

【委員】

(仮称)若者かがやき会議に関わってくれそうな人がいれば引き込もうと思っている。皆さんもそれぞれにピンと来た人がいれば、是非引き込んでいただき、盛り上げていきたい。

【副委員長】

得意分野がそれぞれあるなかで、今日の議論は実りのある時間だったと思う。それぞれの強みを生かして共通のゴールに向かって進んでいけば、きっといいものができるのではないかと改めて感じた。

(2) プランのデザインについて

委員からサンプルとして提案のあったデザインの共有を図るとともに、若者が手に取り見てもらえるような冊子となるよう委員からのデザイン案の提供を求めた。

(3) プランの名称について

「(仮称)ひたち若者かがやきプラン」から(仮称)を削除した名称とするかどうかの確認を行い、「ひたち若者かがやきプラン」とすることで決定した。

5 事務連絡

(1) 次回の日程等について

次回は3月24日(水)午後2時から開催する。(場所未定)

6 閉 会

以 上